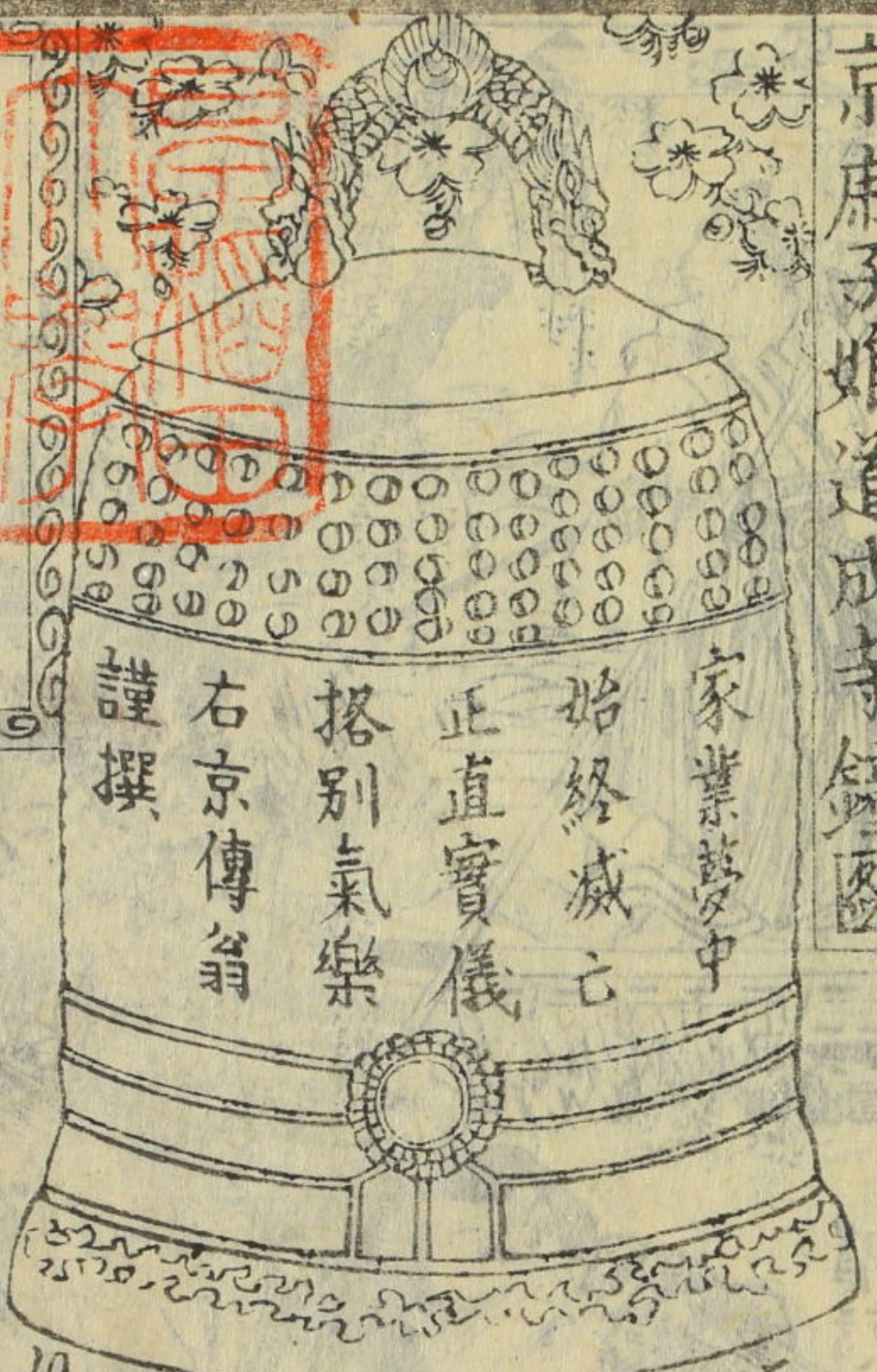


門 へ 13  
 號 3851  
 卷



京麻子娘道成寺鐘圖



天保十三年辛丑孟  
 春稿本同初冬梓成  
 天保十三壬寅年  
 春正月發販通商

○うごひ  
 これの京をいれやうにすむ作者  
 老い京麻子娘道成寺と申を  
 長壽人のよき志りていやどにこれを  
 たのぞく日暮川の舟兒あを  
 わさねふかきつらたむと知りひ  
 別をいれさるる入るるをいれあか  
 みりつる小松あいのそをいれあか  
 思ふれとそをいれあかたをいれ  
 さらのいれこれいれあかのさるる  
 い作料のいれの供養とつけ玉つり  
 ひ経小これまをわりのいれとそ  
 一あま不すのいれまをいれとそ  
 ふひやうじをいれあかのいれあか  
 うれとそをいれあかのいれあか  
 東のいれとそをいれあかのいれあか

山東共庵京山





花川 佐七郎  
白  
ひつ  
あのみ  
あん  
丸

刈取

日高川

本朝丸の  
綱五郎  
使者

阿村  
田五郎  
娘  
小糸

貞子の  
庄次を清  
娘清姫

京麻子





第二章

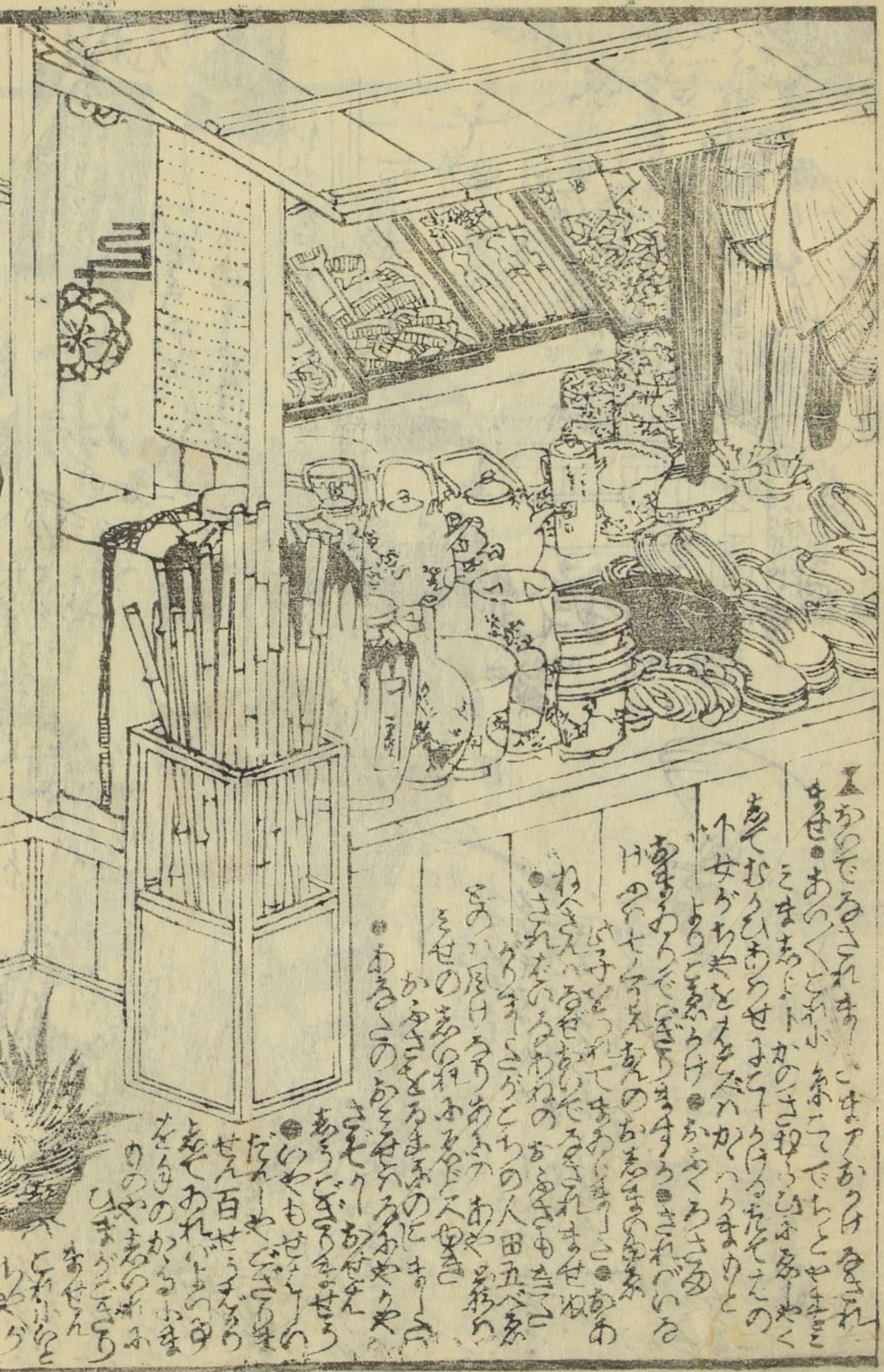
あまごの村の田五郎とて  
村のあまごの村のよ  
らやさんちのついで

④ たつぬら  
● たつぬら  
● たつぬら  
● たつぬら  
● たつぬら

● たつぬら  
● たつぬら  
● たつぬら

小糸のあま  
あやめ

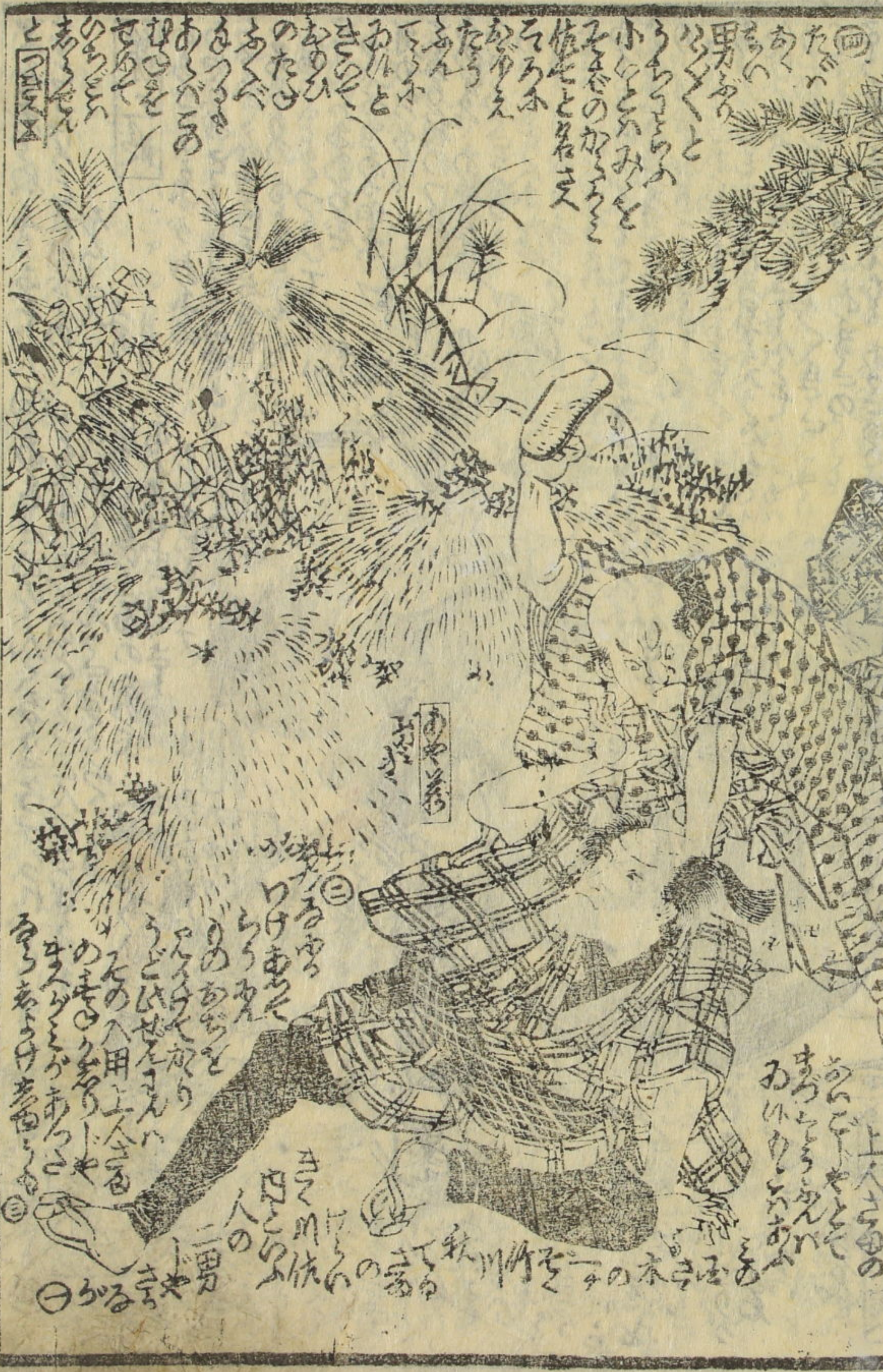
⑤ 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま



● 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま  
● 小糸のあま

甲の  
 乙の  
 丙の  
 丁の  
 戊の  
 己の  
 庚の  
 辛の  
 壬の  
 癸の  
 甲の  
 乙の  
 丙の  
 丁の  
 戊の  
 己の  
 庚の  
 辛の  
 壬の  
 癸の

上ノ  
 下ノ  
 中ノ  
 左ノ  
 右ノ



上ノ  
 下ノ  
 中ノ  
 左ノ  
 右ノ  
 甲の  
 乙の  
 丙の  
 丁の  
 戊の  
 己の  
 庚の  
 辛の  
 壬の  
 癸の



甲の  
 乙の  
 丙の  
 丁の  
 戊の  
 己の  
 庚の  
 辛の  
 壬の  
 癸の

△とちあちぬふりあそ  
まじけりこれけずの  
あつたえ

◎あまごぶのく人くるりちけられどつき  
とちあちぬふりあそまじけりこれけずの  
あつたえ

◎あまごぶのく人くるりちけられどつき  
とちあちぬふりあそまじけりこれけずの  
あつたえ



△とちあちぬふりあそまじけりこれけずのあつたえ  
あまごぶのく人くるりちけられどつき  
とちあちぬふりあそまじけりこれけずのあつたえ

◎あまごぶのく人くるりちけられどつき  
とちあちぬふりあそまじけりこれけずのあつたえ

◎あまごぶのく人くるりちけられどつき  
とちあちぬふりあそまじけりこれけずのあつたえ

△とちあちぬふりあそまじけりこれけずのあつたえ  
あまごぶのく人くるりちけられどつき  
とちあちぬふりあそまじけりこれけずのあつたえ

◎あまごぶのく人くるりちけられどつき  
とちあちぬふりあそまじけりこれけずのあつたえ

◎あまごぶのく人くるりちけられどつき  
とちあちぬふりあそまじけりこれけずのあつたえ







あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの

あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの

七五郎

四

あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの

あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの

①のものがけよりきて  
 のをけけけのそと  
 くのそとあひあひ  
 ひろくろくどき  
 ひろくろくどき  
 のころ木々を  
 のれてけけもれ  
 るわわうろひけり  
 さいふのあひのええ  
 さるあふりけり  
 たのけけあふの  
 うきまきゆわあひ  
 のあふりかきあふけ  
 られてけけあふり  
 せんといあけり  
 りけりけり  
 あらうるの用うわ  
 らへこのとあふり  
 まりけりこりや小糸  
 あれをあてけりあふ  
 きのるまのあれ  
 のあふりけりけり  
 まんごまのあふり  
 けりけり



④つられてしち  
 さりけり  
 第六版  
 人としつ  
 のあふり  
 けりけり  
 たいも  
 のあふり  
 たいも  
 のあふり  
 たいも  
 のあふり  
 たいも  
 のあふり

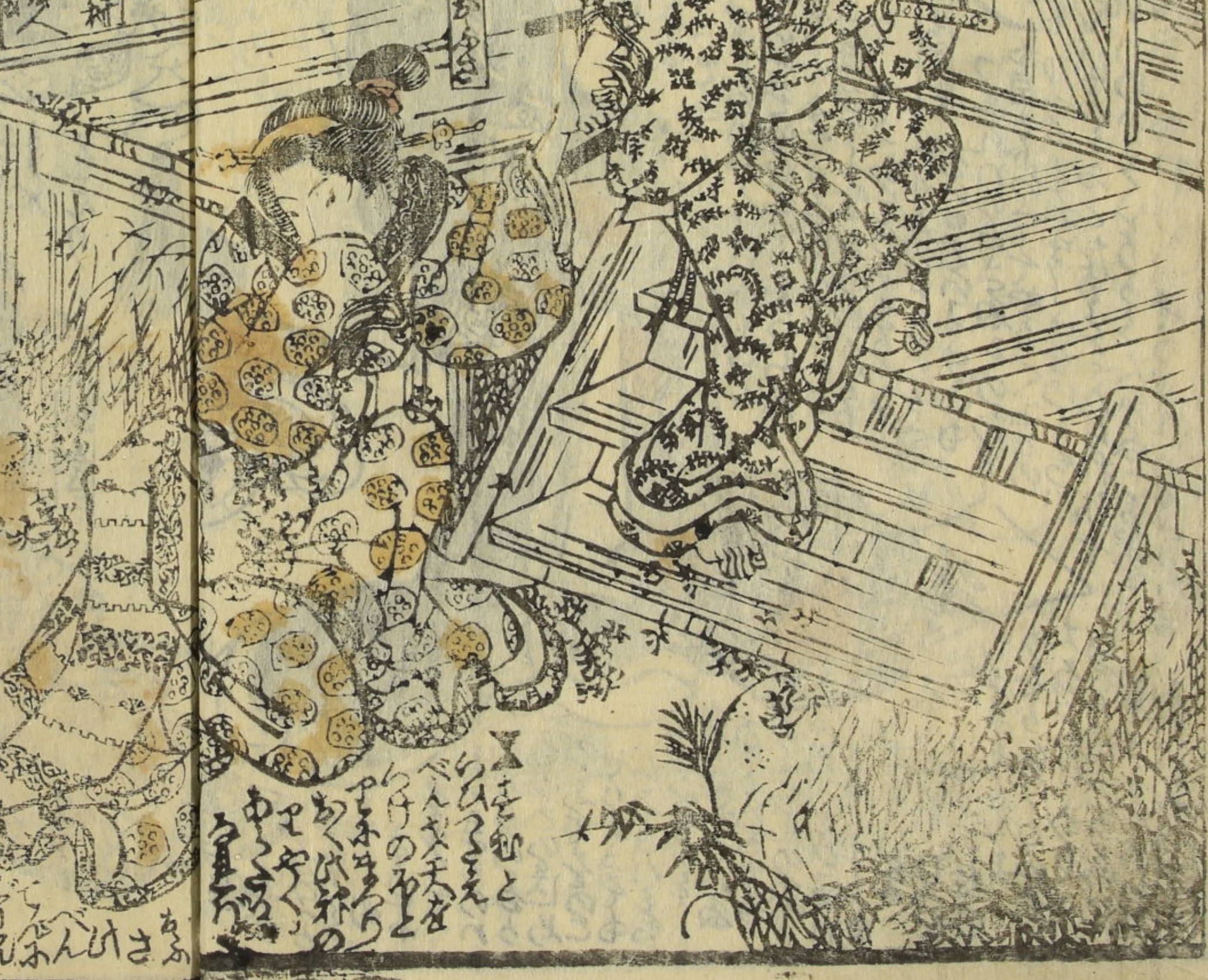
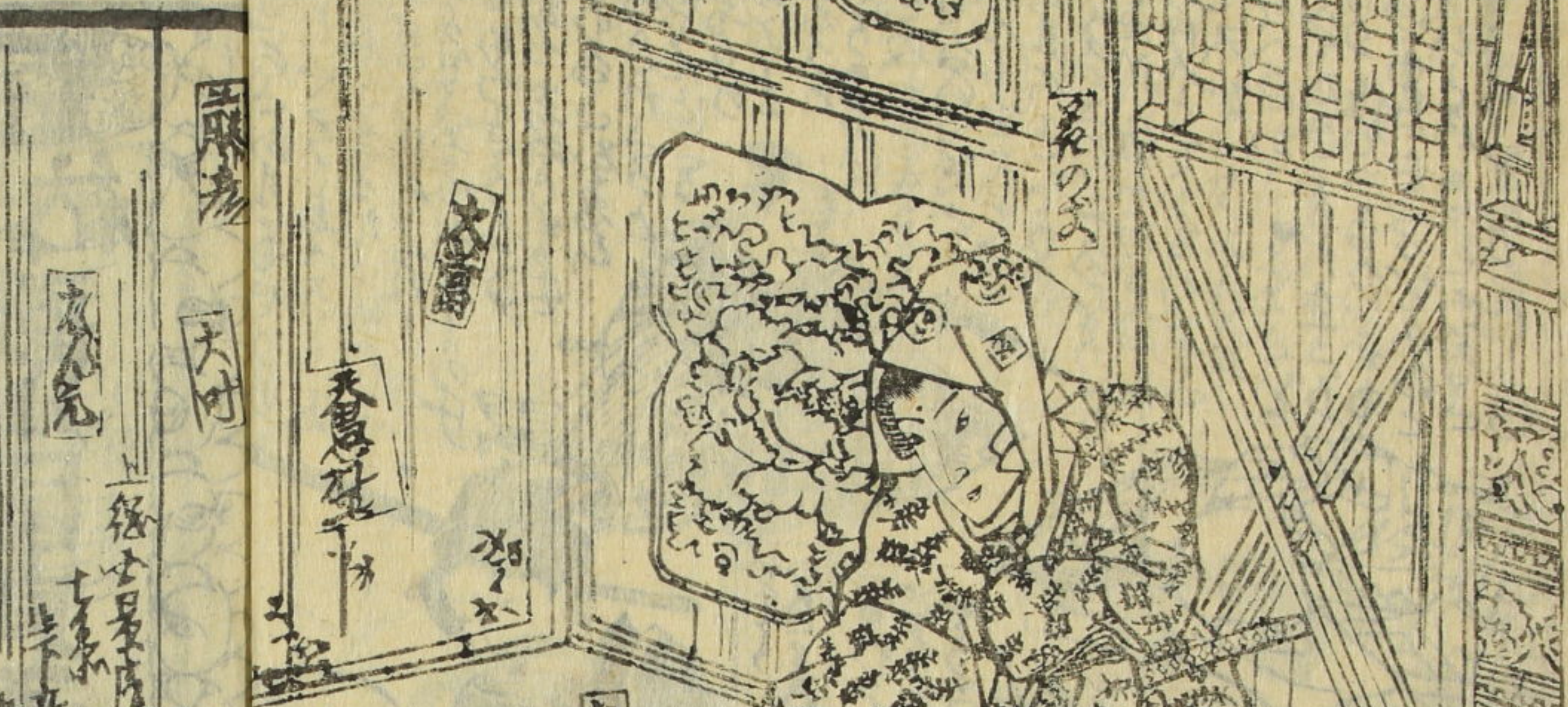


へんごまあて  
 らまのこのと  
 死川七のあふり  
 ひけりけり  
 けりけり  
 けりけり  
 けりけり  
 けりけり  
 けりけり  
 けりけり  
 けりけり  
 けりけり  
 けりけり  
 けりけり

②つられてしち  
 さりけり  
 第六版  
 人としつ  
 のあふり  
 けりけり  
 たいも  
 のあふり  
 たいも  
 のあふり  
 たいも  
 のあふり  
 たいも  
 のあふり



Handwritten Japanese text in the bottom left corner of the left page, including a small square seal.



△いのちのなをこそませぬさり  
 るがらせめてのちどりのびびりを  
 なうさむぬべんてんとおひひ  
 りつていのりけりなりけり戸びら  
 のうちふとあありて●こが名と  
 とあれるふののぞと戸びら  
 ひらけてたあひる  
 まがごと月あてて  
 こそかあまのひらる  
 ●やあむるの  
 ●花の大さ  
 ●あへて



◎それがゆゑのねがひあつてけら  
 へもつとりにすまことやらせ  
 うしろまありそちやあるあ  
 のよや●まのよこらひのあ  
 むらめて田五へあが  
 むすめ◎

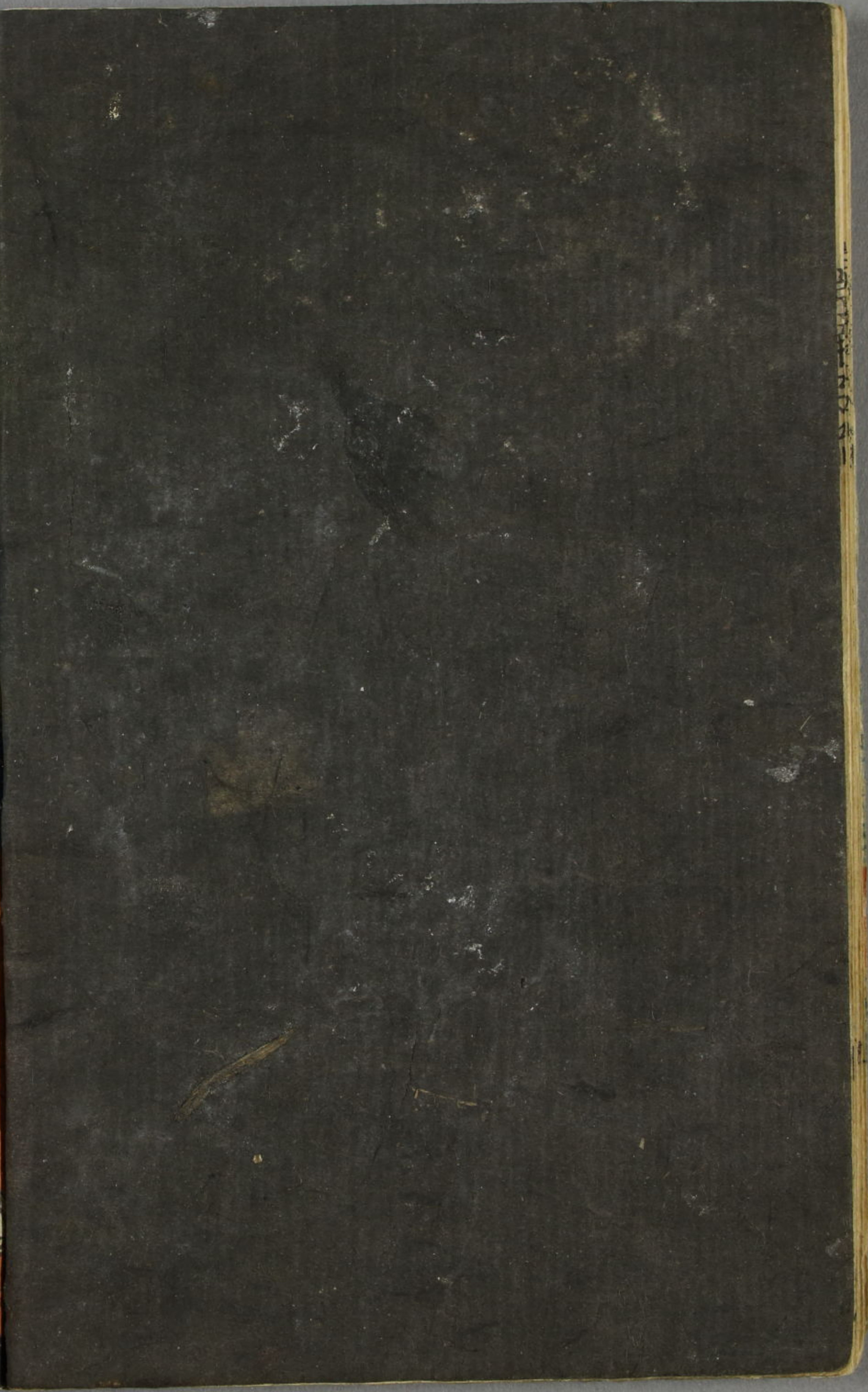
④あふとやま  
 りのしきめの  
 ひまゆめの  
 あてやらぬうまれ  
 上へのせ  
 るのちがけ  
 今までのあ  
 わらうさあ  
 られ

清浄 精製 白妙

きまふある粉な  
 ぬふふふふふふ  
 一包代三十一圓

此のまろくくいのり色  
 らきて身まよひ又いふ  
 ふろの巾へかーい入  
 光澤と白玉のぞく  
 なやほの魚か  
 不測のちあふれバ  
 此のまろくくいのり色  
 らきて身まよひ又いふ  
 ふろの巾へかーい入  
 光澤と白玉のぞく  
 なやほの魚か  
 不測のちあふれバ

本家調合所  
 書物屋 北林堂 西宮弥多清









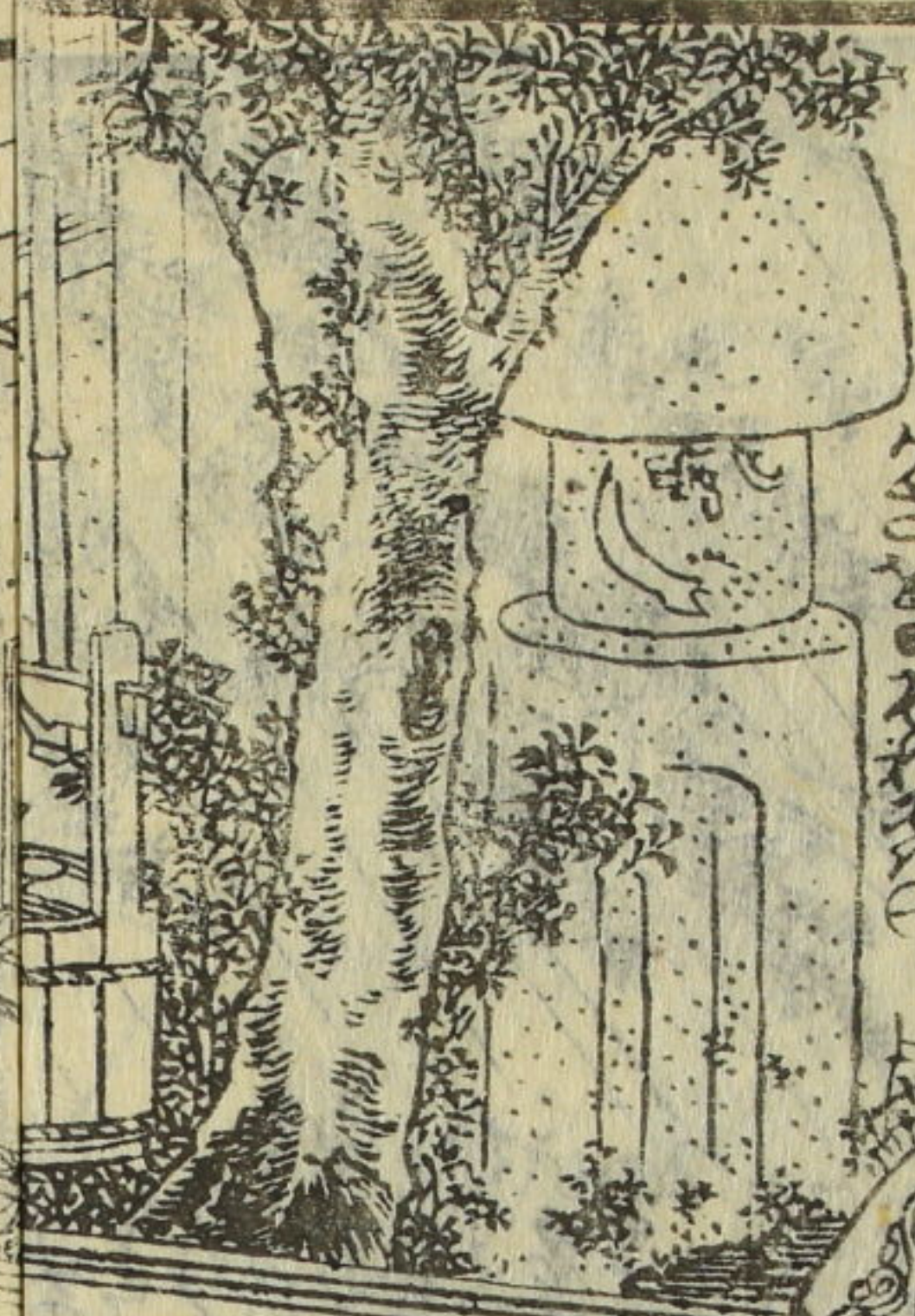






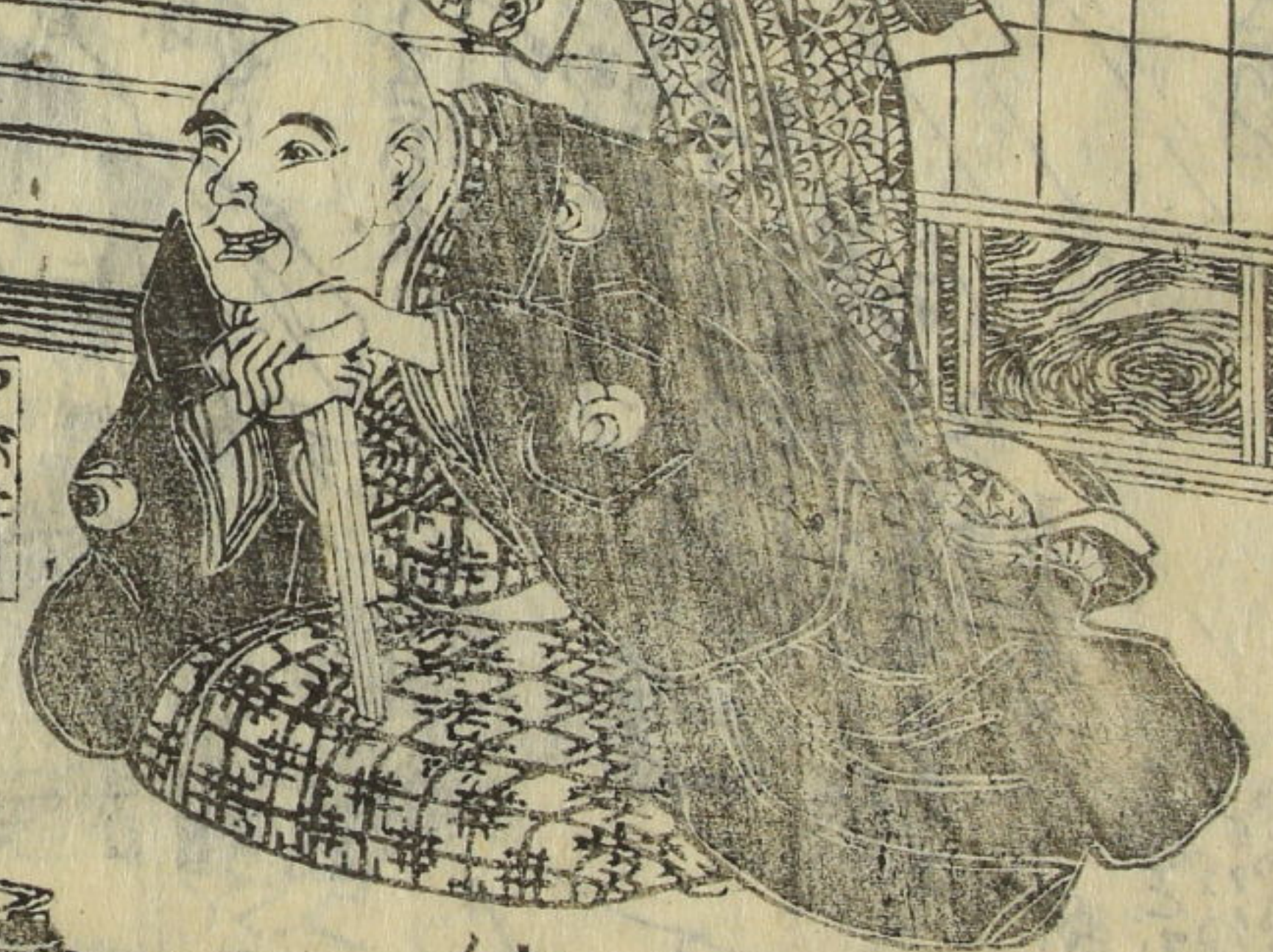
①  
 大いさゝかあるもの  
 目のおまきとまひく  
 大いさゝかあるもの  
 目のおまきとまひく  
 大いさゝかあるもの  
 目のおまきとまひく

京橋子と川



②  
 おまきとまひく  
 大いさゝかあるもの  
 目のおまきとまひく

田舎



③  
 おまきとまひく  
 大いさゝかあるもの  
 目のおまきとまひく

京橋子と川

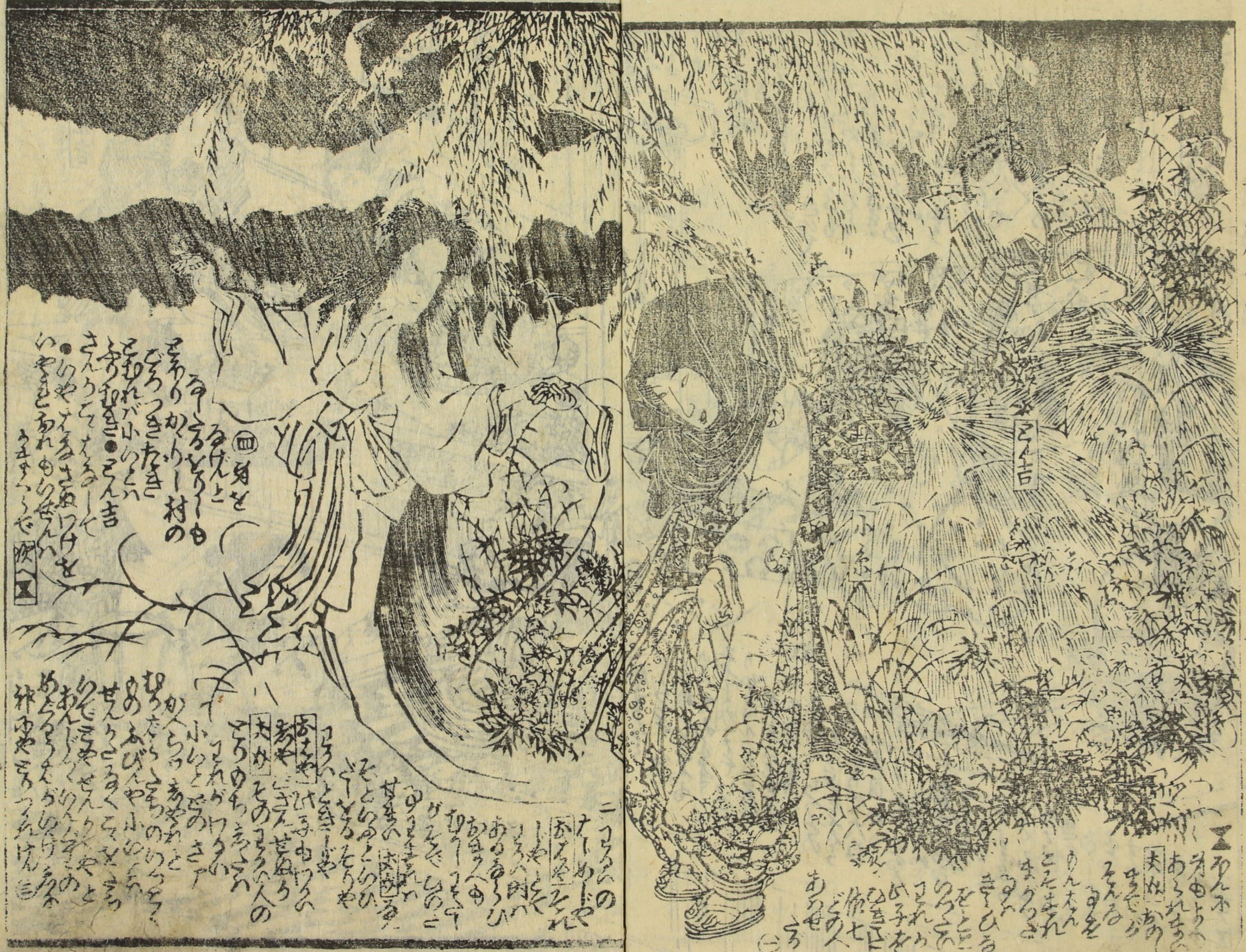


小唄  
 さのせんとおのれは  
 りとくとすまひあはれ  
 さとのめいよとせうを  
 おのれはとせうを  
 小唄  
 さのせんとおのれは  
 りとくとすまひあはれ  
 さとのめいよとせうを  
 おのれはとせうを

第十段  
 それのさそふまこと  
 のんん小唄とせうを  
 せうを  
 小唄  
 さのせんとおのれは  
 りとくとすまひあはれ  
 さとのめいよとせうを  
 おのれはとせうを

第十段





△ 身と  
 □ ありけり村の  
 こゝろつきたま  
 こゝろつきたま  
 こゝろつきたま  
 こゝろつきたま  
 いやふたふたの  
 いやふたふたの

△ 身と  
 □ ありけり村の  
 こゝろつきたま  
 こゝろつきたま  
 こゝろつきたま  
 こゝろつきたま  
 いやふたふたの  
 いやふたふたの

△ 身と

△ 身と  
 □ ありけり村の  
 こゝろつきたま  
 こゝろつきたま  
 こゝろつきたま  
 こゝろつきたま  
 いやふたふたの  
 いやふたふたの



京麻子前

# 京山作 國貞画



## 寐小便の大奇薬

一包代錢三百銅

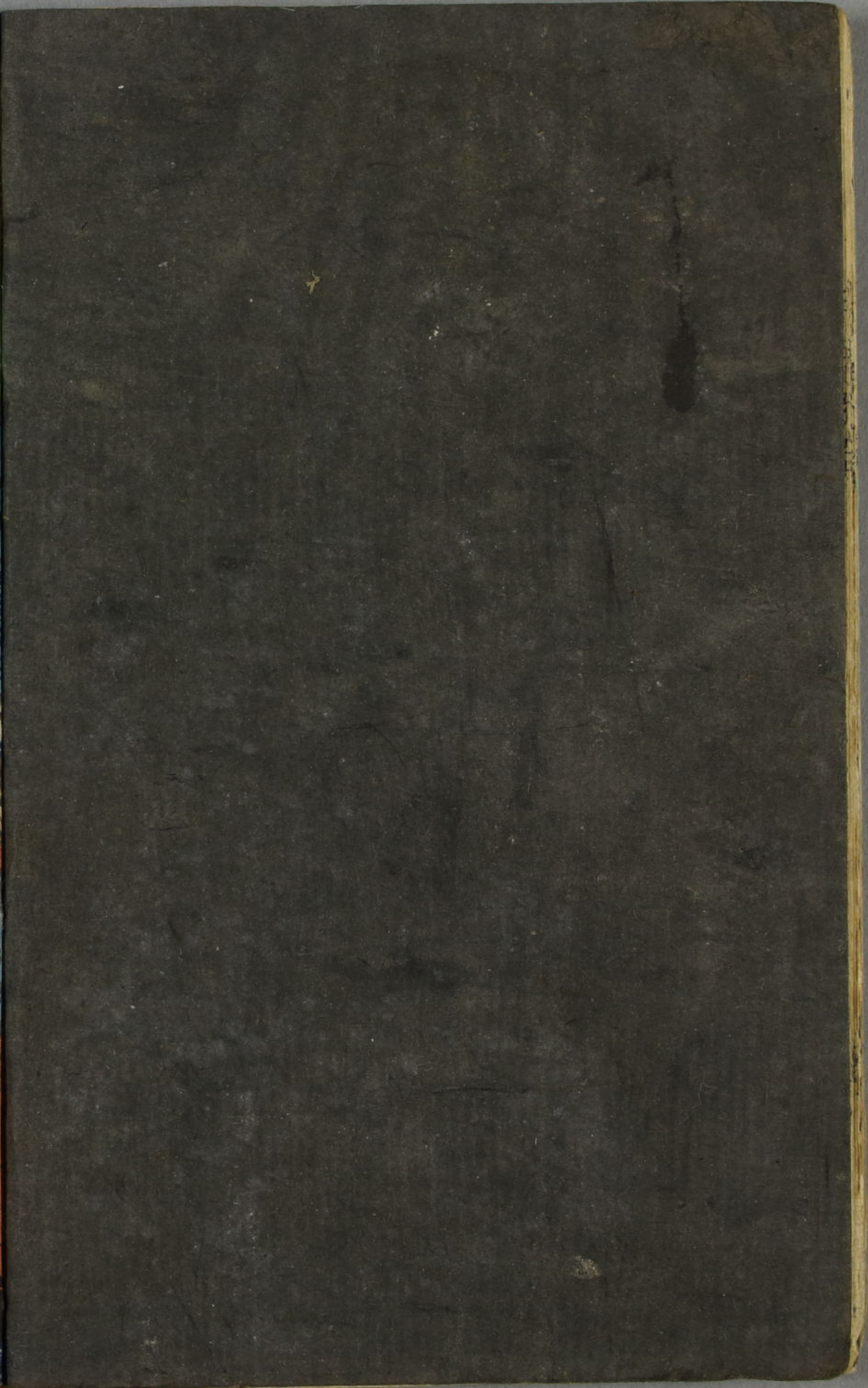
此市茶いり海ど奉久發痛症よても大人小兒男女  
 包ぎ下包そ治るる奇とやいん姉とやいん兄  
 徳人などにも用る小一人も治せといふものよ一俵く徳人  
 のよめ不海を世よむろめ海内の男女孫小便そそ  
 しむものよとよとよ世中れ廣業といちぢむおしりり  
 なくお妙良方取教の心と生せ月ひてそ病苦をなむる

本家調合所

書物屋 北林堂 曲宮 幼兵衛

江戸中橋廣小路田













あきののよき依とさのへ  
つるうのよき依とさのへ  
かきやうのよき依とさのへ  
さんあひのよき依とさのへ  
なまされてあつてあつてあつて

あきののよき依とさのへ  
つるうのよき依とさのへ  
かきやうのよき依とさのへ  
さんあひのよき依とさのへ  
なまされてあつてあつてあつて



あきののよき依とさのへ  
つるうのよき依とさのへ  
かきやうのよき依とさのへ  
さんあひのよき依とさのへ  
なまされてあつてあつてあつて

あきののよき依とさのへ  
つるうのよき依とさのへ  
かきやうのよき依とさのへ  
さんあひのよき依とさのへ  
なまされてあつてあつてあつて

あきののよき依とさのへ  
つるうのよき依とさのへ  
かきやうのよき依とさのへ  
さんあひのよき依とさのへ  
なまされてあつてあつてあつて

第十二夜

小のちとて... ありとありと... ありとありと... ありとありと...

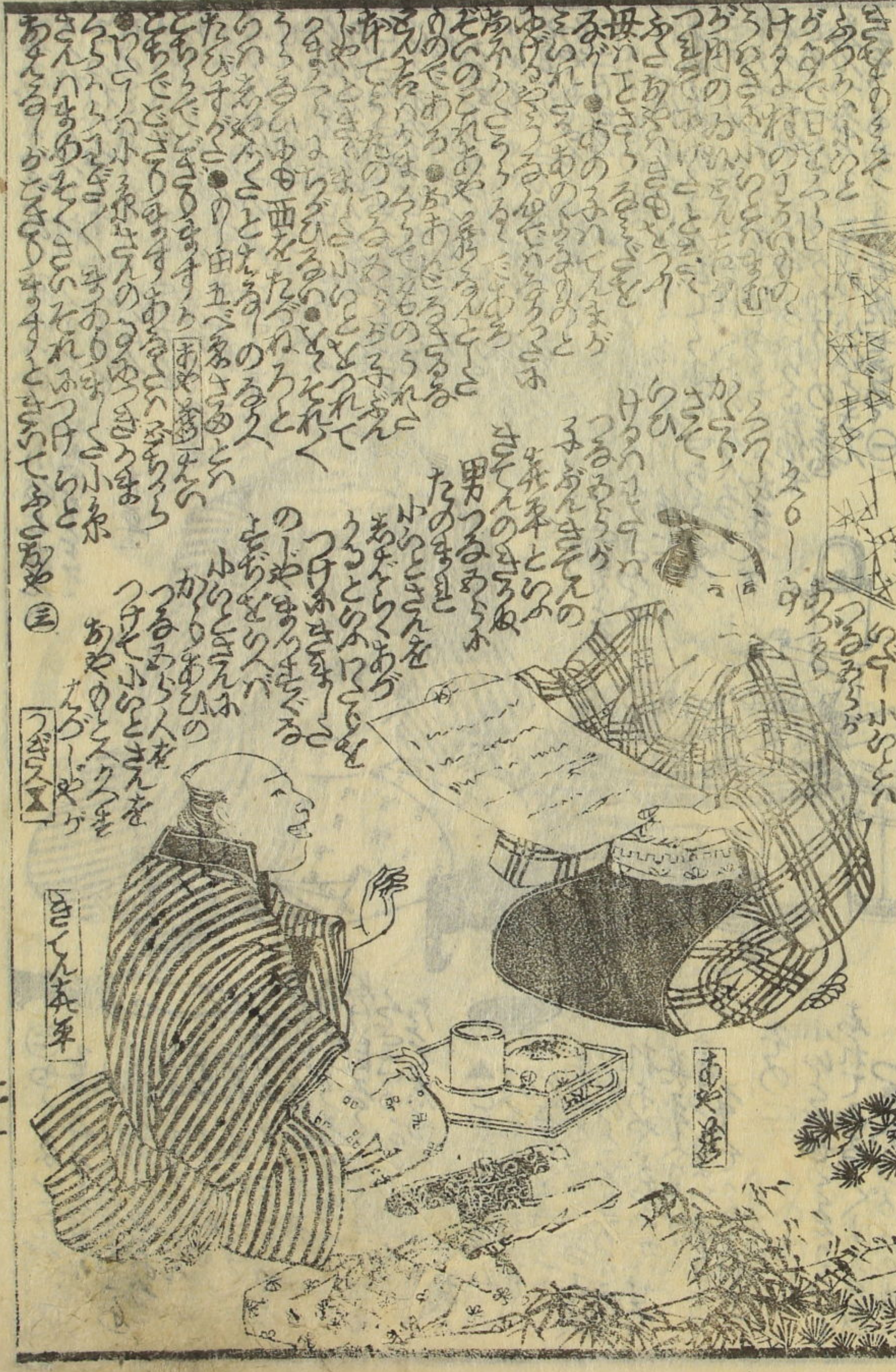


おれは... ありとありと... ありとありと... ありとありと...

おれは... ありとありと... ありとありと... ありとありと...

十二夜

九四



おれは... ありとありと... ありとありと... ありとありと...

おれは... ありとありと... ありとありと... ありとありと...

七五



△その後の...  
△吉原の...  
△一丁目...  
△百六十...  
△四...  
△五...  
△六...  
△七...  
△八...  
△九...  
△十...

第十四元

△その後の...  
△吉原の...  
△一丁目...  
△百六十...  
△四...  
△五...  
△六...  
△七...  
△八...  
△九...  
△十...

△その後の...  
△吉原の...  
△一丁目...  
△百六十...  
△四...  
△五...  
△六...  
△七...  
△八...  
△九...  
△十...













